

オペラにおける舞台美術の今日的表現

2008年、兵庫県立芸術文化センターの喜歌劇《メリー・ウイドウ》公演は各分野で高い評価を受けました。そのなかに舞台美術の美しさを称賛する声が多々ありました。今回の公開研究会では、同公演の舞台美術を手がけた舞台装置・衣裳デザイナーのサイモン・ホルズワース氏を招き、オペラにおける舞台美術の今日的表現について学びます。

当日は、《メリー・ウイドウ》公演の舞台美術について解説していただくとともに、2011年の同センターの喜歌劇《こうもり》公演に向けてまさに製作検討中の舞台美術模型を公開していただく予定です。両公演の演出家、広渡勲教授がモデレーターを務め、舞台美術の表現を多方面からご紹介いたします。



ホルズワース氏製作の検討用模型
喜歌劇《メリー・ウイドウ》(兵庫県立芸術文化センター、2008年)

日時 2010年12月20日(月) 17:00~18:30
会場 昭和音楽大学スタジオ・リリエ(北校舎5階第1スタジオ)
講師 サイモン・ホルズワース Simon HOLDSWORTH 舞台装置・衣裳デザイナー
モデレーター 広渡勲 Isao HIROWATARI 昭和音楽大学教授
* 英語逐次通訳付。[通訳:野呂 香(昭和音楽大学助教)]

サイモン・ホルズワース Simon HOLDSWORTH 舞台装置・衣裳デザイナー

1978年ロンドン生まれ。ウィンブルドン美術学校を経てマーストリヒト芸術アカデミー(シアター・デザイン)修了。ロンドンの若手オペラカンパニー「セカンド・ムーヴメント」に参加しているほか、バクストン音楽祭等で活躍。2007年、兵庫県立芸術文化センター《魔笛》で衣裳デザイン助手を務めた後、翌年の同センター《メリー・ウイドウ》(演出:広渡勲)の装置デザイナーに抜擢され、大胆で創造性に富んだデザインが高く評価された。その後も2008年オペラ・ノース《ヘンゼルとグレーテル》、2009年オランダ国立レイスオペラ《熊》、2010年ザルツブルク州立劇場《魔弾の射手》、エカテリンブルグ国立アカデミー《ドン・ジョヴァンニ》、マゲデブルク歌劇場《ジャンニ・スキッキ》などを手掛けている。2011年には《こうもり》(演出:広渡勲)で再び兵庫に招かれるほか、北アイルランド・オペラ《トスカ》も予定されている。

【協力】 兵庫県立芸術文化センター

【主催】 昭和音楽大学舞台芸術センター オペラ研究所

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-16-6

TEL 044-953-9858 FAX 044-953-6652 E-MAIL opera@tosei-showa-music.ac.jp

URL <http://www.tosei-showa-music.ac.jp/opera/>

*** 参加無料。参加をご希望の方は「氏名」「所属」「連絡先(電話番号・電子メールアドレス)」をご連絡ください。
応募多数の場合は抽選とさせていただきます、落選の方にはご連絡いたします。**